



「エイズ」って、どんな病気なの

いろいろな病気に対するていこう力がなくなる

「エイズ」というのは、エイズ・ウイルスという特殊なウイルスが、人から人へうつり、うつされた人の体の中でどんどん増え、いろいろな病気に対するていこう力を、弱めてしまう病気です。

「エイズ」になると、健康な人なら平気な細菌やウイルスで、いろいろな病気を起こしてしまうことになり、体が弱ってしまうのです。

エイズ・ウイルスが体に入ると

「エイズ」というのは、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）が、感染することによって起こる病気です。

ふつう、わたしたちの体に入ってきた、細菌やウイルス、カビ、微生物などの病気の原因になるものは、白血球の仲間などに食べられたりすることで、死んでしまいます。

この白血球の仲間などはたらきを、コントロールしているのが、ヘルパー T 細胞です。エイズ・ウイルスが体に入ると、このヘルパー T 細胞と神経細胞に入りこみ、そのはたらきをできなくしてしまいます。そのため、白血球の仲間などの、わたしたちの体を守るはたらきもできなくなり、健康な人になら、何の害もおよぼさない細菌やウイルスで、変わった病気を起こしてしまうことになるのです。また「がん」にもなりやすく、命をうばわれてしまうこともあるのです。（監修・保志 宏）

